

六 聯 争 國 ノ 軍 事 ト シ ヲ 戦 略

米 國

米國ハ對日戦争ヲ於キ主要ナル役割ヲシタシタノデアアルガ其海軍ハ從來太平洋、大西洋、アジア艦隊ヲ（A三、B三、C一五、D一五、S一五、W三、Xニ區分セラレ夫レ太平洋及太平洋ニ配シテイタガ歐洲ニ於テ第二次世界戦争ノ勃發スルト直ニ米太平洋艦隊ノ主力ハ布哇ニ集結セラレ又新鋭機艦〇〇機ハ布哇ニ増派セラレタ、比島、フィリピン其他ノ基地ノ強化モ企圖セラレ一九四一年ニ入ルト米國ノ軍備ハ一段ト飛躍ヲシタ戦前ニ於ケル米海軍勢力ハ次ノ通りデアッタ

	現	有	建	造	中	計
戰艦	一三	一七	三二			
航母	六	一一	一八			
巡洋艦	三七	五四	九一			
驅逐艦	一六〇	二〇四	三六四			
潛水艦	一〇五	八〇	一八五			
計	三二三	三六七	六九〇			
兵員	二、一三、三〇〇人					
飛行機	二、四三、五機					

當時ニ於ケル米海軍ノ兵員擴充計畫ハ次表ニ示サレテイル

年度	兵員數	新就役予望數
一九四一年度	二三、二万	二八
一九四二	二八、六	七四
一九四三	四〇、八	一二八
一九四四	四七、三	
一九四五	五三、二	

米陸軍ハ第一次大戦ノ經驗ニ鑑ミ陸軍兵力ヲ擴充シテ海外派遣ヲ準備シツ、アツテ一九四一年七月頃ノ總兵力ハ約一五〇万乃至一六〇万ニ達シテイタ開戦前ノ兵力ハ更ニ増加セラレツ、アツタ

- 野戰部隊 五九、〇〇〇
- 機械化部隊 四三、〇〇〇
- 特殊部隊 二一、五〇〇
- 航空隊 一六、七〇〇

港灣防備部隊
海外駐屯軍
各守備地要員

四六
一三〇
六〇

② 英、蘭、濠、比ヲ含ム南方地域ノ軍狀

南方諸地域ニ於ケル昭和十六年九月頃ノ英（米）蘭濠比諸軍ノ總兵力ハ約三十六万飛行機約七〇〇機ヲ尙連續増加セラレテキタ年末頃ニハ更ニ著シク増強セララルセノト判断セラレタ

(A) 陸空軍兵力

考 備	合 計	蘭 印	ガ ム	比 島	香 港	英領ホルネ	ビ ル マ	馬 來	地 方 別
新 西 蘭									陸軍兵力
濠 洲	約 五〇万								航空兵力
印 度	約 三五万								
	約 一〇万	三七三、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、八〇〇	一六三、〇〇〇	一九、〇〇〇	三五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	約 一〇
									約 一六〇以上
									約 三五〇
									約 七二〇
									約 二〇〇
									約 二五〇
									約 一〇〇

任前方ニ歸領アル米英蘭海軍兵力

蘭國		米國		英國				國名		所在地	艦種			
蘭	布	支那及比島方面	地中東	布哇以東	新西蘭方面	濠洲方面	「アデン」紅梅方面	東阿方面	孟買方面	古倫母方面	新嘉坡	香港	支那及比島方面	
	七		五	一				一						戰艦
														空母
														巡艦
														驅逐艦
														潛水艦
														其ノ他
二六	三六	四三	二六	二	一	一九	一	九	一	三	二	五	三	二

々豫想セラレテキタ聯合軍ノ戰略

聯合國ハ相互ノ提携ヲ緊密ニシツツ日本ノ進攻防止ニ努メ已ムヲ得
ズ戰爭トナツタ場合ニ於テハ次ノ戰略ヲ採ラントシテキルモノト豫
想セラレテキタ

(一) 米英「ソ」並其ノ他中立國トノ密接ナル共同連繫下ニ日本ノ政治
的孤立ヲ圖ルト共ニ蔣政權ヲ支援強化シ日本ノ国力ヲ大陸ニ專制
膠着セシメル

(二) 聯合各軍ト共同シ成ルベク永ク南方要域ヲ確保スルト共ニ航空並
海軍ニヨル「ゲリラ」戰ニヨリ日本ノ海外ノ海外トノ交通破壞ヲ

圖リ日本ノ國防態勢確立ヲ阻止スル

(1) 之ガ爲 新嘉坡、比島ノ要域ヲ成ルベク永ク確保スル

(2) 南方ノ重要資源ヲ日本ノ手ニ入ラシメナイ如クスル

(三) 新クシテ聯合國ノ軍備充實整備スルニ伴ヒ陸海空軍ヲ以テ各方面
ヨリ進攻シ日本海軍ニ對シテハ適時決戰ヲ強要スル

之之ガ爲軍ノ進攻方面ヲ次ノ三方面ト豫想シテ布陸ハソノ中心トシ
テ重視スル

(A) 中部太平洋（委任統治領及其北方海面）

(B) 「ソロモン」「ニューギニヤ」方面

(C) 「アラスカ」「アリュウシヤン」千島方面

(四) 米（英）ハ短期決戦ヲ避ケ日本ヲ先ツ疲勞困憊セシメテ後日本ニ

決戦ヲ強要スル之ガ爲空軍及潜水艦ヲ以ツテ日本内部ノ混亂、交

通破壊ヲ企圖スル

(五) 米國ハ先ツ獨逸ノ打倒ヲ企圖シ次デ日本ニ對シ主戦力ヲ投入シテ

之ヲ敗北セシメル

又「ソ」聯ヲシテ北方ヨリ牽制セシメ成シ得レバ對日戰ヲ参加ス

シメル



Military Intelligence Section
 GENERAL HEADQUARTERS
 UNITED STATES ARMY FORCES PACIFIC

米軍反攻要圖

支那

空襲

米反攻

B

3. 「ソ」聯邦及支那ノ軍狀トソノ戰略

(1) 軍狀

「ソ」聯邦ハ歐「ソ」方面ノ戰況ガ逼迫シテモタノデソノ極東軍兵力ヲ逐次歐本國方面ニ轉用シ爲ニソノ兵力竝ニ素質モ低下シテモタ
開戰當時ノ「ソ」極東軍ハ次ノ如クデアツタ

區分名稱	極東軍兵力量
師團	約二〇ヶ箇
戰車	約一三〇〇
飛行機	約一五〇〇

支那軍ハ數年ニ亙ル日本軍ノ攻撃ニヨリ相當大ナル損害ヲ受ケテモタケレドモ米英ノ援助ニヨリ尙左記兵力ヲ保持シテモタ
三〇〇ヶ師團 一九八万

飛行機（第一線機一一〇）
然シ支那軍自力ヲ以テスル決戦的總反攻ハ管分實施スルコトガ
出來ナイトノ結論デアツタ

(2) 豫想セララルル戦略

「ソ」連邦ハ歐洲方面ノ戦況ヨリ見テ遽ニ對日戦争ヲ開始スル
トハ判断セラレテキナカツタケレドモ米英「ソ」ノ連繫ハ緊密
化セララルコトハ必至デアルカラソノ虞モアルト見ラレテモタ
當時ニ於ケル「ソ」連ノ戰略トシテハ次ノ如ク考ヘラレタ
(1) 極東「ソ」領ヲ確保シツツ「ソ」(米)ノ空軍ヲ以テ沿岸州
樺太、「カムチャツカ」方面ヨリ日本ノ中樞要域ヲ空爆スル
(2) 其ノ極東海軍ヲ以テ日本ト大陸就中朝鮮トノ交通ヲ遮斷スル
(3) 此際滿洲ニ進攻作戰ヲ實施スルヤ否ヤハ當時ノ情勢ニヨリ決
定セラレル

對日戦開始ノ時機ハ春夏ノ候ニ選定スル
又支那トシテハ依然米英「ソ」ノ支援ヲ得テ「ゲリラ」作戰ニ
ヨリ日本陸軍兵力ヲ大陸ニ拘束牽制スル戰略ヲ採用スルト共ニ米
英(ソ)ニ航空基地、潜水艦基地ヲ提供スル

尙「ソ」ノ對日開戦ヲ見タ場合ニハ内外蒙古方面ヨリ北支方面
ヘスル「ソ」支ノ連合作戦ガ活潑ニナルコトト豫想セラレテキ
タ

結 論

日本カ愈々對米（英）戦争ヲ開始スルニ方リテ以上ノ諸要素ノ上ニ左ノ
基本戦略ガ樹立セラレタコトニナツタ

一日本ハ急東ニ極東ニ於ケル英米蘭ノ根幹ヲ覆滅シテ日本ノ自存自衛ヲ
確立シテ戦略上優位ノ態勢ヲ整ヘル
之ガ爲

①奇襲急襲戦ニヨリ先ツ緒戦ノ戦果ヲ最大ナフシメル

②海正面ニ於テハ速ニ南方ノ要域ヲ攻略シテ此等地域並南方委任統治
領ニヨリテ我ニ敗ノ戰略態勢ヲ確立スル慮ルヘク米海軍主力ヲ誘致
又ハ抑込シテ之ヲ監視スル

③陸正面ニ於テハ更ニ積極的措置ニ依リ將政權ノ屈伏ヲ促進スル

④陸海軍ノ防衛擔任正面ヲ決定スル

但し主 防衛線ヲ（要圖參照）

- ①「ウエイキ」
- ②「マリアナ」
- ③「トラバツク」
- ④「ニューギニヤ」

ノABC線

②「マーシャル」―「トラバウルク」―「ニューギニヤ」―「ジャバ」

―「スマトラ」―ノDE線

③小笠原―「マリアナ」―「バフ」―「ニューギニヤ」―「ジャバ」ノF線

ニスルヤ或ハ右ABCDEFノ中其地域内ニ於テ敵ノ戦力ヲ消耗シテ決戦スベキモノナリヤ否ヤニ關シテハ定マツテキナカツタ

④長期戦ヲ爲シハ南方要域占領后益々確保要域ノ態ヲ強化シテ敵戦力ノ減殺ヲ圖リ米國ノ戦意ヲ喪失セシメテ戦争終結ノ機會ヲ速ニスル之ガ爲

⑤獨伊ト提携シテ先ツ英ノ弱伏ヲ圖ル

⑥極力戦争相手ノ獲大ヲ得ルシテ三國ノ利導ニ努メル

①長期戦ニ於ケル聯合軍ノ内地空襲ニ對シテハ帝都其ノ重要都市並産業機關ノ防空ハ現在ノ軍防空戦力及官民ノ防空能力ニヨリ其ノ害ヲ減殺シテ戦争遂行ニ支障ヲ惹スルコトナキ様ニスル

②米英戦争中「ソ」ノ對日戦争ヲ防止スルニ努メルニ意ヲ行フ

支那及日本内地ヨリ所蒙ノ兵力ヲ抽出シテ對「ソ」ニ對シテ行フ

③對米宣傳ヲ伴フシテ米國內部ノ崩壊ヲ助成スルニ努メル

之ヲ要スルニ日本ハ對米英戦争ヲ決意シタケレドモ米國ヲ屈伏セシムル

積極的方策ナク長期持久ト世界情勢ノ變化等ニヨリ米英ノ戦意固念ノ時

變ヲ待ツノミテアツタ面シテ之ガ利ニハ對米長期戦ニ即應スル戰術ガ必

要ニアツタガ實際ニ於テ之ニ即應スル對米英戦術トシテ陸海軍ニモ適合

セラレタ主旨一貫シタモノガ殆ンドナカツタ







